

山岳トイレ技術分野の進捗状況及び来年度の方針について

1. 平成20年度の事業報告

(1) ワーキンググループ (WG) 開催経緯等

20年 6月27日	第1回WG開催 (平成20年度実証試験(継続)の進捗状況の確認及び今後の検討内容の確認等)
9月 2日	第2回WG開催(一部非公開) (平成20年度実証対象技術(新規)の承認、山岳トイレデータベース作成及び経年試験に関する検討)
11月26日	第3回WG開催(一部非公開) (実証試験の進捗状況の確認及び経年試験の検討等)
21年 1月20日	第4回WG開催(一部非公開) (実証試験結果報告書の確認及び実証試験要領第5版の改訂)
3月12日	第5回WG開催(一部非公開) (実証試験結果報告書の確認、実証試験要領第5版の改訂) (WG検討員名簿は別紙参照)
2月19～20日	山岳トイレ技術セミナー開催(都内) (山岳トイレ技術と事業を普及させるため試験結果と参考事例を、実証機関及び講師から報告。併せて展示ブースを設置。参加者は、自治体職員や山小屋関係者を中心に延べ約150人)

(2) 実証試験状況等

実証機関：秩父市(継続)、財団法人日本環境整備教育センター

(実証対象技術)

- ①空気自然活用型污水处理装置(循環利用)(ホーラ・クリーンシステム)
(株)豊南コーポレーション(継続)
- ②土壌・活性炭処理併用循環式污水处理技術(「せせらぎ」エコ+)
(株)オリエント・エコロジー(新規)
- ③オゾン併用循環式污水处理技術(「せせらぎ」オゾン+)

(株)オリエント・エコロジー(新規)

2. 来年度の方針

○経年試験の運用に向けた検討

山岳トイレ技術分野の対象技術は、高額なイニシャルコストが必要となることから、厳しい自然環境下への設置後も所定の性能が安定かつ継続して発揮されることが、ユーザーから求められている。しかしながら、実証試験期間は基本的に単年度であり、経年的な変化が把握できない点で、ユーザーの要望には応えられていないことが課題であった。そこで、平成20年度に、試験後の複数年経過した技術の実証試験（「経年試験」）を実施するために、実証試験要領を改訂した。

〔課題〕

経年試験導入の検討にあたり、実証済み申請者にアンケート調査を実施した。その結果、多くの申請者が経年試験への参加に前向きであったが、一方で、金銭的負担の軽減を求める声が多くあった。

〔改善策〕（検討事項）

22年度からの本格運用に向けて、以下の点を重点的に検討していく。

- ・実証事業の質を損なわない範囲内での実証項目・調査回数等の軽減。
- ・実施体制のスリム化。

<今後の予定>

- 実証運営機関の選定（3月下旬）
- 実証機関の公募（4月）

平成 20 年度環境技術実証事業検討会
山岳トイレ技術ワーキンググループ 検討員名簿

(敬称略)

相野谷誠志	(株)蒼設備設計	設備設計部	課長
井田 忠夫	神奈川県自然環境保全センター		副技幹
岡城 孝雄	(財)日本環境整備教育センター		部長
桜井 敏郎	(社)神奈川県生活水保全協会		理事
船水 尚行	北海道大学大学院工学研究科		教授
穂苅 康治	北アルプス山小屋友好会		会長
◎森 武昭	神奈川工科大学ホームエレクトロニクス開発学科		教授

◎：座長